

学習フィードバックシート

プロジェクト名：ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」を
ハードウェアから開発する - グループ名：GroupB

担当教員名：三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行 学籍番号 1018035 氏名 對馬武郎

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	7 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	7 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	14 /20	標準14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	14 /20	標準14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか ・ 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	73 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2. 理由

今期のプロジェクト学習はすべてオンラインで行われたこともあり、それゆえの弊害もあったが大部分は円滑に進んだと思う。オンラインで会議するにあたって、大人数で同時に喋ると収拾がつかなくなるという観点から、まずグループごとにオンライン会議をして意見をまとめるという手法をとったが、これはとてもうまくいったと思う。少人数に分けることで話し合いが円滑に進み、設計面では各グループの特色を色濃く出すことができた。課題に対して別々の角度からアプローチできるのはとても良い事だと思う。プロジェクト開始当初の予定では最終的に各グループの制作したロボットを統合して最終成果物とする予定だったが、時間の制約から各グループの制作したロボット3体をもって最終成果物となった。多くの課題が残る結果となったが、未来大発の店員ロボットの足掛けとしてはとても有意義なものになったと思う。

3. 共同作業によるコメント

コメンター氏名 須田恭平

彼はグループ B のうち Raspberry pi を用いた音声認識の開発をメインに担当していました。デザイン面では犬のデザインの発案をしてくれました。機能面では私の担当していた Arduino 部分との連携について試行錯誤していた際にアドバイスをしていただき Arduino と Raspberry pi との通信をうまく動作させることができました。

サイン 須田恭平

コメンター氏名 山本侑吾

グループ B で音声認識を担当してもらいました。自分にはできないことを淡々と行っておりとても頼もしかったです。発表会のあたりでは予期せぬトラブルもありましたが彼の尽力のおかげで立て直すことが出来とても感謝しています。

サイン 山本侑吾

コメンター氏名 奥村輝

Raspberry Pi での音声認識の開発を担当してくれました。グループの中で一番ロボットのプログラム関係に詳しかったので、とても頼りになりました。また、他のメンバーが気づいていないポイントを指摘するなど、彼のおかげで良いプロジェクト活動になりました。

サイン 奥村輝

4. 担当教員によるコメント

教員サイン 三上貞芳

教員サイン 鈴木昭二

教員サイン 高橋信行